

## 「十字架の上で」

2016年01月14日

**ルカによる福音書 23章 34節～43節。**〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。

主イエスは十字架にかけられた。十字架刑はT字形に木を組み、股の所に重心を支える突起棒を置き、手足を釘で打ち付けて、ぶら下げる刑罰である。体は下がって息ができなくなるので、なんとか持ち上げようとする。尺取虫のように上下運動を繰り返し、体力を消耗し、ついに体を上げられなくなり、窒息死する。主イエスは、この過酷な十字架の上で〔「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」〕と祈られた。私は初めて、この言葉を読んだ時、驚愕した。凄まじい愛を生きた主イエスを、罪人とし、命を奪う者のために赦しを祈ることなどあり得るのかと思ったからである。この祈りを読んだ時から、主イエスに惹かれ、どんな方なのかを知りたいと、聖書にのめり込んだ。〔 〕に括られているのは、主イエスご自身の言葉ではなく、ルカ福音書の著者が、十字架は罪の赦しの出来事であると信じ、主イエスの口に乘せて記したのである。主イエスの「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」という祈りによって、人の罪は赦され、神に是認された生が与えられた。これが、新約聖書が告げる福音の核心である。私は自分自身を受け入れることができず、悶々としていたが、主イエスのこの祈りの中に置かれていることを信じ、寄りよりすがって生きてきた。ルカが伝えた主イエスのこの祈りは人を生きることに向かって立ち上がらせる。私は「あるがままのあなたをよし」とする福音を伝えることに集中してきた。

主イエスの苦しむ姿を見上げていた人々はあざ笑い、お前が神からのメシアで、ユダヤ人の王なら、自分を救え、他人を救ったのだから、自分を救ってみよと侮辱した。この侮辱の言葉こそが主イエスの生涯を表している。他人を救ったが、自分を救わない。苦悶の中で命を献げた主イエスの十字架の死に人間の救いがあったのである。十字架にかけられていた犯罪人の一人が「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ」と罵った。もう一人の者が、お前は神を恐れないのか、我々は、自分のやったことの報いを受けているが、この方は何も悪いことをしていないとたしなめ、そして「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。主イエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。罪を悔い、主イエスに信頼する者に、与えられる救いを約束している。